

日本大学 桜樹会会報

第 7 号

昭和47年5月

日本大学桜樹会

# 目 次

幅のある長もちのする体操にしよう .....	浜田 靖一	2
46年度会員総会議事録 .....		3
事業報告 .....		5
決算報告 .....		6
会則改正に関連して .....		7
47年度役員 .....		8
会長挨拶 .....	稲橋 恒行	9
47年度事業および行事計画 .....		10
47年度第1回幹事会報告 .....		11
新入生紹介 .....	早田 卓次	13
第3回TBS杯成績 .....		15
第1回ゴルフコンペ報告 .....	津村 二郎	15
会員名簿訂正について .....	総務	17
会費納入について .....	総務	18
編集後記 .....		19

イラスト 仁木文子(45年卒)

## 幅のある長もちのする体操にしよう

部長 浜田 靖 一

「この頃の体操競技は少し暗くはないかい。」と僕の友人がいうのである。「会場の照明のことか。」といったら、「いや、雰囲気のことさ。」という。

そういわれてみるとそんな気がしないでもない。たしかにオリンピック選手選抜の最終予選などになると、みている方でも息苦しくなることがある。特に選手の中に教え子などがある場合は落ち着いて坐ってなどおられなくなるのが普通である。世界最高水準をゆく日本の体操競技であれば、難度も極めて高い技が要求される上に、出場選手の実力は紙一重、それこそちょっとした気のゆるみもゆるされないわけである。しかし体操も近代スポーツであってみれば、当然たのしみの要素がなくてはならない筈である。高度な技能力の可能性の追求は大切であり、日本のようにその

先頭に立っている国は、その責務のようなものもあるであろう。

しかしその反面、器械運動のもつレクリエーション性や、エキジビション性の研究がなされなければ、永い将来、大衆の生活に定着する、楽しめるスポーツにはなり得ないのではないかと思うのである。そうでないと、技が高度になればなる程、大衆から遊離した、みるための孤独なスポーツになりはしないかと心配するのである。

日大の体操部も、短かい歴史のわり合に体操の名門にのしあがったが、あせらず息の長い体操競技部であるためには、仲よく、楽しく、長もちのする部にしたいものである。そのためには、先輩後輩のきずなど、幅の広さを考えたいものである。



# 昭和46年度桜樹会総会議事録

日時 3月26日 午後2時～6時

場所 日本体育協会会議室

## 出席者

- (35卒) 稲橋  
(36卒) 平川  
(37卒) 福田  
(38卒) 菊地, 早田  
(39卒) 小栗, 小松  
(40卒) 鶴見  
(41卒) 海谷, 中原  
(43卒) 今村, 早川  
(44卒) 近藤, 津村, 渡部,  
(45卒) 大原, 椎野, 高橋  
(46卒) 相原, 池田, 斉藤, 武田  
(47卒) 石井, 菅野, 斉藤, 椎名  
庄司, 高橋, 田中, 徳永  
識名, 長岡, 宮川, 宮沢  
以上出席者35名  
委任状50名分

## 議事

議長選出 議長 吉川 輝

書記選出 書記 小松武雄, 海谷美代子

### 1. 報告事項

(1) 昭和46年度事業及び行事報告(菊地)

(本誌P5 参照)

(2) 昭和46年度決算報告(菊地)

(本誌P5 参照)

○監査の結果, 相違なきことを確任  
(小松)

○借入金について質問 (平川)

○借入先, 会計報告等説明 (菊地)

(以上, (1)(2)について承認)

### 2. 協議事項

(1) 会則の一部改正について

○内規条文3項目追加提案(菊地)

第2条 2年間会費を滞納し何らの連絡がない場合は除名されることがある。

第3条 新入会員は入会申込書とその年度の会費を納入することにより会員として認められる。

第4条 会員相互の婚姻により夫婦共に会員となった場合, 次年度より妻の会費を免除する。

○内規条文追加の主旨提案理由説明 (稲橋)

○幹事会にての改正案討議経過説明 (菊地)

○除名された者の再加盟問題について質問 (椎野)

○会員の推薦等により再加盟は可能である。 (稲橋)

○学年幹事等を利用して横の連絡が出来るよう努力すべきである。 (福田)

○良いことであり努力する。総務への連絡もよろしく願いたい。 (菊地)

(第2条承認)

○第3条は在学中に早田、木村両コーチ  
に入会申込書を提出して選考願いたい。

(渡部)

○卒業時の部員在籍資格は監督、コーチ  
に一任したい。

(菊地)

○部員としての存在を確認する上で良い  
賛成。

(椎名、宮川)

○体操部としては毎年確認をしている。

本年度は36名を推薦したい。

(早田)

○第2条と第3条との関連について質問

(今村)

○新入会員は申込書と会費との関係があ  
るので別に考えたい。

(菊地)

(第3条承認)

○第4条は本会の会計状態からみて苦し  
くならないか。

(椎野)

○大勢には影響しない。

(菊地)

○外国留学生等も免除を考えている。

(第4条承認)

○桜樹会の組織、特に学年幹事について説  
明を求める。

(渡部)

○学年幹事を置くのは望ましいが、現実  
には人数が多くなり実際に動けないの  
で現在は廃止している。

(稲橋)

○幹事は実際に動ける人(昭和45年度  
総会で10名と決定)が望ましい。

尚、会則改正に関係なく各学年の連絡  
委員というのは望ましいが。

(菊地)

○ブロック幹事と4専門部の存在理由を  
会則に明記してはどうか。第6条の幹

事10名は現実に動ける人を選考でき  
るよう幅をきかせ若干名にしてはどうか。

(小松)

○ブロック幹事と4専門部は申し合せ程  
度で決めていたが、できれば明記した  
い。

(菊地)

○毎年幹事の人員が変化してはこまるが  
どうか。

(福田)

○昨年度の10名が不都合であれば今年  
若干名に改正すれば良い。

(稲橋)

(第6条幹事10名は若干名に変更)

(2) 新入会員承認の件

昭和47年卒業生中、早田、木村両コー  
チ推薦の36名の入会承認(但し、内規  
第3条の手続完了を条件とする)

(3) 役員改選の件

(立候補なし、推薦とする。)

○稲橋会長留任希望

(平川)

○幹事会にて門脇副部長を会長に迎える  
べく手をうったが、門脇副部長は辞退  
した旨経過報告。

(菊地)

○10年目であるので現状打開したいが

(稲橋)

○会長留任賛成

(渡部、吉川)

(一年の期限つきで会長留任決定)

(副会長立候補なし、推薦とする)

○堀田、石井両副会長は仕事の関係で副  
会長の再任を辞退する旨連絡を受けた。

(稲橋)

(副会長候補として次の6氏が推薦され  
選挙を行う)

副会長推薦候補者並びに投票結果

石井 8 平川 18 堀田 2

福田 10 菊地 12 早田 8

(投票の結果,平川,菊地兩副会長決定)

○幹事長,幹事,総務,会計監査は会則により会長一任とする。

(4) その他

○4専門部中,指導部は削除すべきと思うが。(今村)

○4専門部の存在理由は条文をもって会則に謳うべき項目だが。(吉川)

○昭和44年度の議事録より各部の設立経過報告。(菊地)

(競技部,審判部,編集部は存続に決定指導部の存続可否について決をとり,12:9で存続決定。尚,ブロック幹事,4専門部担当者の人選並びに文章は幹事会に一任とする)

○審判部のあり方について,講習会の開催

や審判員名簿の作成等配慮してほしい。

(早川)

○桜樹会員の選手役員登録負担について。

(小栗)

○出来る限り会負担にする。(菊地)

3. 昭和47年度事業及び行事計画

(1) 桜樹会関係 (菊地)

(本誌P10参照)

(2) 体操部関係 (早田)

(本誌P10参照)

4. その他

○TBS杯開催について (早田)

○第3回TBS杯の当番校のため,打合せ会が行なわれた。

○審判員証の書替を忘れずに。又,資格のある人は本年12月の講習会で第1種を取得されたい。(海谷)

昭和46年度事業および行事報告

1. 会報の発行 (参加13名)

第4号 4.6.4

第1回ゴルフコンペ47.3.29綿ヶ原カントリー

第5号 4.6.9

(参加11名)

第6号 4.7.2

4. スキースクール開催

2. 会員名簿の発行 4.7.2

第2回桜樹会スキースクール47.1.3~5

3. 親睦会の開催 (会報第6号参照)

志賀高原 (参加29名)

第5回ハゼつり大会46.10.3 東京湾

5. その他

(参加16名)

TBS大会,東日本インカレ,インカレ,

第8回忘年会46.12.4~5 洲の崎

全日本,新人戦等の審判員派遣及び応援。

## 昭和46年度決算報告

### 収入の部

項目	46年度決算	備考
45年度繰越金	28,783	
会費	87,000	過年度分 17,000 本年度分 60,000
雑収入	7,087	47年度分 9,000 48年度分 1,000
借入金	41,817	懇親会余剰金
合計	164,687	

### 支出の部

項目	46年度決算	備考
各種補助金	58,879	体操部 30,000
会議費	1,600	本会 28,879
慶弔費	18,000	总会, 幹事会等室代
事務通信費	20,850	香典, 賤別
印刷費	59,300	会報送料, その他
雑費	4,078	会報, 名簿, その他
口座手数料	1,980	事務用品, その他
繰越金	0	
合計	164,687	

昭和46年度収支決算を以上の通り報告いたします。

昭和47年3月22日

日本大学桜樹会 総務 菊地君男 印  
鶴見興人 印

監査の上, 相違なきことを確認する。

昭和47年3月22日

日本大学桜樹会会計監査 芳尾明 印  
小松武雄 印

## ◎ 会則改正に関連して

本会会則は、昭和46年度会員総会において、内規条文の追加等、かなり大幅な改正がなされた。本年度は、この会則によって本会が運営されることになるが、会員諸兄のご理解を仰ぐため、ここに改正された会則の全文を掲載する。

### 日本大学桜樹会会則

第 1 条 本会は日本大学桜樹会と称す。

第 2 条 本会の事務所は東京都世田谷区桜上水3-25-40日本大学体操部内におく。

第 3 条 本会は日本大学体操部の発展ならびに会員相互の親睦を図るを以て目的とする。

第 4 条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1 懇親会の開催

2 競技会への参加出場

3 印刷物、会員名簿の作成

4 その他必要な事業

第 5 条 本会は日本大学体操部のO・B及びO・Gならびに本会の趣旨に賛同し、会長が特にこれを認めたる者を以て組織する。

第 6 条 本会に次の会員をおく。

会長	1名	副会長	2名	幹事長	1名
----	----	-----	----	-----	----

幹事	若干名	ブロック幹事	9名	総務	2名
----	-----	--------	----	----	----

会計監査	2名
------	----

専門部(競技部、編集部、審判部、指導部)	各若干名
----------------------	------

第 7 条 会長、副会長は会員総会でこれを選挙する。

幹事長、幹事、総務及び会計監査は会長これを指名する。

ブロック幹事は幹事会で選出する。

専門部は幹事の互選とする。

任期は各一カ年とし重任をさまたげない。

第 8 条 会長は本会を代表し会務を統轄する。

副会長は会長を補佐し会長事故ある時はその職務を代理する。

幹事は会長を補佐し会務を推進する。

会計監査は本会の会計を監査する。

第 9 条 会長は必要に応じ幹事会の議を経て顧問及び相談役を委嘱することができる。

第 10 条 本会は次の機関をおき議事は凡て出席者の過半数でこれを決する。

1. 会員総会 2. 幹事会

第 11 条 会員総会は年一回、3月第3日曜日に行なう。

第 12 条 会長は緊急の必要ありと認めるとき幹事会を招集する。

第 13 条 本会の経費は、会費、寄附金及びその他の収入を以てこれに充てる。

第 14 条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日で終る。

第 15 条 本会の会計決算は総会の承認を得なければならない。

第 16 条 この規約の変更は会員総会の出席者の3分の2以上の同意を得なければならない

内 規

第 1 条 本会の会員納入金の金額及び納入期限は次の通りとする。

年会費 金1,000円也 毎年6月30日

第 2 条 2年間会費を滞納し何らの連絡がない場合は除名されることがある。

第 3 条 新入会員は入会申込書とその年度の会費を納入することにより会員として認められる。

第 4 条 会員相互の婚姻により夫婦共に会員になった場合、次年度より妻の会費を免除する。

## 昭和47年度桜樹会役員

### (選出過程)

会則第7条により、会長、副会長は総会における選挙で選出され、幹事長、総務、会計監査、幹事については、総会後に会長より指名のあった方々から、了承を得て決定いたしました。

ブロック幹事は、幹事会で討議のうえ、以下の方々にお願ひすることになりましたので、よろしくおねがいたします。

なお、本年度より、競技部、審判部、編集

部、指導部の各部については、幹事がそれぞれ担当し、必要に応じて幹事以外の方に依頼することになりましたのでご了承願ひます。

会長 稲橋恒行

副会長 平川文雄、菊地君男(総務兼任)

総務 鶴見興人

会計監査 石井征也、堀田淳二

幹事長 吉川 輝  
幹事 上野 剛, 中原 剛, 朝倉徳雄  
津村二郎  
小栗郁郎, 原 弘吉 (競技部担当)  
海谷美代子, 早川尙夫, 渡部宣裕  
(審判部担当)  
小松武雄 今村 悟 (編集部担当)  
早田卓次, 木村多喜 (指導部担当)

ブロック幹事  
(北海道) 中島 元, (東北) 門脇 隆  
(関東) 田野 哲 (東海) 辻岡 寛  
(北陸) 船木政明 (近畿) 小柴守夫  
(中国) 常井晴道 (四国) 山崎智彦  
(九州) 堀田敏明 (沖縄を含む)

\*\*\*\*\*

## 会 長 挨 拶

稲 橋 恒 行

(昭和46年度総会における挨拶より)

私が会長に再選されましたことは、本会の今後の発展を考えた場合、マイナスになりはしないかと危惧いたしております。

ご承知の通り、本会は昭和38年4月発足以来、本年度で10年を迎えました。その間、微力ながら会長として本会の発展に努力してまいったつもりではありますが、内容的にみてまだまだ十分でないことを反省せざるをえません。どのような組織にもいえることですが、同じようなスタッフで長年仕事を続けておりますと、どうしてもマンネリ化に陥りやすいものであります。

私は、本会が真に日本大学体操部のOB・OG会として発展するためには、思い切った手段を講じなければならぬと考えておりました。特に本年度は創設10年を迎えたことでもありますし、この際会長をどなたかに代

って載き、本会が従来のあり方から脱皮し、大きく発展することを願っていた次第です。

前年度末(3月22日)に行われました幹事会では、私のこのような考えを受け入れて載き、幹事会として、門脇副部长を本会の会長に推薦することに意見が一致いたしました。

しかし、門脇副部长の辞意が固く、幹事会の意向は受け入れて載けませんでした。

結果として私が再選されたわけですが、その責任の重さを痛感いたしております。

選出された以上、期待に添うべく努力するつもりではありますが従来のあり方から脱皮するには、どうしても皆様方の今まで以上のご協力を仰がなければなりません。

会員ひとりびとりが本会に対して関心を持ち建設的など意見をどしどしお寄せ載き、それを結集して事にあたりたいと考えておりま

す。

本総会では、確認書の問題、会費の諸問題等かなり画期的な決定がなされていると思います。このような点も、会員の方々に、本会会員であることの認識があれば、必ずご理解載けるのではないかと思います。

その認識の上に立って、みんなで本会を育てていきたいと思っています。

皆様のご協力を心からお願いいたしまして挨拶といたします。



## 昭和47年度事業および行事計画

### (桜樹会関係)

1. 会報の発行 第7号～第9号
2. 会員名簿の発行
3. 審判員名簿の発行
4. 親睦会の開催
  - ① 現役、OBOG交歓会 期日場所未定
  - ② ゴルフコンペ 8月及び10月 場所未定
  - ③ ハゼつり大会 10月初旬 東京湾
  - ④ 忘年会 12月第1土曜日～日曜日 銚子
5. スキースクール開催 48年1月3日  
48年1月3日～5日 志賀高原
6. 全日本出場  
11月16日～20日 米子市  
出場選手強化合宿 3月 場所未定
7. 審判講習会(2,3種)期日未定 文理
8. 会員総会 48年3月第3日曜日 休協

\* \* \* \* \*

### (体操部関係)

- 4月  
15～16 オリンピック第2次予選会 (伊勢市)
- 19～26 リガ遠征(速藤,海谷,参加)
- 23 演技発表会 (駒沢)
- 5月  
13～14 オリンピック最終予選会(女子)
- 上旬 関西インカレ
- 21 東海北陸新人戦
- 6月  
3～4 オリンピック最終予選会(男子)
- 9～10 西日本インカレ (西宮市)
- 16～18 東日本インカレ (上尾市)
- 7月  
2 新体操インカレ (駒沢)
- 20～23 全日本インカレ (福井市)

8月

16~17 中学生選手権 (中野区)  
 上旬 インターハイ (米沢市)  
 19~20 ジュニア選手権 (中野区)  
 26~27 全日本新体操選手権  
 27~ オリンピック(ミュンヘン)

10月

下旬 東北インカレ  
 15 毎日杯東西対抗 (駒沢)  
 22~ 国体 (鹿児島)

11月

4~ 5 東海北陸インカレ  
 11~12 関東新人戦  
 12 供演大会  
 16~20 全日本選手権 (米子市)  
 25~26 中日杯 (名古屋市)

12月

2~ 3 中日杯 (東京)  
 15 1種審判講習会

## 昭和47年度第1回幹事会報告

— 総務 —

日時 4月11日午後6時~9時

場所 日本体育協会会議室

出席者

稲橋, 平川, 吉川, 早田, 上野, 菊地  
 小栗, 鶴見, 中原, 海谷, 朝倉, 早川,  
 今村, 原 以上 出席 14名  
 欠席 4名

会長挨拶 (幹事選考過程について説明)

座長 幹事長 吉川 輝

協議

1.47年度事業および行事計画について

○総会における事業および行事計画につ  
 いての再確認をするとともに、新たに、現  
 役との交歓会の開催を追加。

○各計画の担当者および具体案の検討

(1)会報の発行 (編集部)

○第7号は報告誌, 第8, 9号は研究誌

として発行したい。(今村)

(2)会員名簿の発行 (総務)

○入会申込書, 会員同意書の整理がつき  
 次第早急に発行したい。(菊地)

(3)審判員名簿の発行 (審判部)

○会員全員の調査票を送付し, 早急にま  
 とめたい。(早川)

(4)親睦会の開催

①現役, OB, OG交歓会 (指導部)

○部の予定等を考慮のうえ, 具体案をた  
 てたい。(早田)

○希望としては, バスケットボール, ソ  
 フトボール大会等がよいのではないか  
 (稲橋)

②ゴルフコンペ(第2回幹事, 吉川, 山中  
津村)

○第2回コンペは8月中に開催したい。

(吉川)

③ ハゼつり大会 (総務)

○乗船定員の関係で、人員に制限があることを了承していただきたい(菊地)

④ 忘年会 (総務)

○本年は銚子市を予定している。期日は例年の通り、12月第1土、日曜日とする。(菊地)

⑤ スキースクール

○スキースクール実行委員会を次の通り決定

会長 稲橋恒行

指導部長 小栗郁郎

企画、渉外 朝倉徳雄、原弘吉

会計 鶴見興人

○第3回スキースクールは、48年1月3日～5日、志賀高原にて行う。(朝倉)

⑥ 全日本参加

○出場予定メンバーは次の通り

チームリーダー 朝倉徳雄

選手 早田卓次

" 高橋昌典

" 中谷秀明

" 徳永富夫

" 工藤昌二

" 原弘吉

" (椎名昇)

○椎名を除き、選手登録完了。8月頃、強化合宿を実施したい。(小栗)

⑦ 審判講習会 (審判部)

○現役および会員を対象として、2、3

種の講習会を実施する。場所は文理体育館とし、具体案については体協審判部とも連絡をとり検討する。(早川)

⑧ 会員総会

○会則により、48年3月第3日曜日に開催する。

夏休み等に、地方での臨時総会の案も出されたが本年度は実施しない。

⑨ その他

○全日本インカレ、東日本インカレ、国体、インターハイの際は、幹事1名以上が必ず参加し、現地における懇親会を開催する。

2. 47年度予算について

○各部の活動計画に従い予算案を検討した結果、別表の通り決定。

3. ブロック幹事選出

○検討の結果前掲の9名を選出、総務より、各位に対して連絡のうえ承諾を得ることに決定した。

4. その他

○桜樹会としてのマークを制定し、ユニフォームや、スキースクールの際のワッペンとして使用したり、バッヂ、タイピン等に加工して、会員の方に購入願うといったことが検討された結果、会報を通じてマークのデザインを募集し、次回幹事会にかけることになった

○希望があれば、会報誌上に広告を掲載する旨決定した。

\* \* \* \* \*

## 昭和47年度予算

### 収入の部

項 目	内 訳	予 算 額
会 費	47年度会費236名分	236,000
雑 収 入	実演収入, 寄付金, その他	58,000
合 計		294,000

### 支出の部

項 目	内 訳	予 算 額
補 助 費	本会, 体操部	50,000
会 議 費	室代他	10,000
事 務 通 信 費	会報, 名簿送料, はがき, 切手	40,000
印 刷 費	各種通知等	5,000
雑 費	事務用品等	5,000
借 入 金 返 済		41,817
競 技 部 予 算	登録料, 参加料, 補助費等	52,000
編 集 部 予 算	印刷費(会報, 名簿)	65,000
審 判 部 予 算	通信費等	5,000
指 導 部 予 算		5,000
予 備 費		15,183
合 計		294,000

## 新 入 生 紹 介

指導部 早田卓次

今年もまた体操部では、38名の新入生を迎えました。このうち15名が、本会会員の方々の教え子ということで、私達部を預かる者として大変嬉しく思っております。また、皆様方が手塩にかけて育てられた選手をまか

されたことに、非常な責任も痛感いたしております。皆様方のご協力を得まして、これらの新人を、立派に育てていきたいと考えておりますので、何卒よろしくおねがいをいたします。

石毛英二	佐原	千葉	長谷川	金松	豊南	東京
五十嵐仁一	土浦日大	茨城	寛山	秀成	宮崎日大	宮崎
大津卓也	"	"	宇都木	元美	夙	埼玉
酒井清	"	"	柳	富雄	京	東京
梶山広司	相工付	神奈川	栗原	良孝	大	埼玉
鈴木一弘	"	"	吉田	正文	長崎	長崎
古山満	名古屋大付	愛知	吉田	哲三	日大豊山	東京
松山禎久	鎮西進	熊島	中川	鈴行	保	"
市川恭児	岡山日大	岡山	増宮	本敏	磯	茨城
岡崎真一郎	清田工業	大坂	下田	尾聖	国学	東京
前山沼喬	秋田育英	秋田	松山	本恭	熊本中央	熊本
杉沼葉勉	仙台合	宮城	山官	登美枝	山陽女子	岡山
千葉洋二	葦大山形	兵庫	山青	木久	徳島商業	徳島
岡田和夫	日大三代	山形	佐藤	島洋	作新学院	栃木
吉田啓一	能大鶴ヶ丘	秋田	中島	水靖	"	"
佐野静雄	日大鶴ヶ丘	静岡	清野	丹	橘学園	神奈川
中村康宣	日大鶴ヶ丘	東京	"	"	大岩手女子	島根
大貫正	豊南	"	"	"	白石女子	岩手
						宮城

(順不同)



## 第 3 回 T B S 招待競技会

4 月 2 日 (日) 駒沢体育館

男子団体総合	第 2 位		
種目別 ゆか	第 3 位	田中章二	9:00
鞍馬	第 1 位	五十嵐健夫	9.20
	第 3 位	住広 晃	8.70
つり輪	第 1 位	五十嵐健夫	9.20
	第 1 位	梶山広司	9.20
	第 3 位	西巻洋一	9.00
平行棒	第 1 位	西巻洋一	9.05
	第 3 位	木下咲夫	8.75
鉄 棒	第 1 位	五十嵐健夫	9.55
女子団体総合	第 2 位		
種目別 ゆか	第 2 位	矢部信恵	9.20
平均台	第 1 位	矢部信恵	8.85
	第 3 位	今成洋子	8.40
	第 3 位	宮本敏子	8.40
平行棒	第 2 位	宮本敏子	9.10
跳 馬	第 2 位	宮本敏子	8.85



## 第 1 回ゴルフコンペ報告

津 村 二 郎 (44 年卒)

3 月 29 日、埼玉県「綿ヶ原カントリークラブ」で会員外 2 名を含む 11 名が参加し、第 1 回桜樹ゴルフコンペが開催されました。はからずも、私が優勝してしまいましたので優勝者が報告するという規則に従い、以下当日の様を簡単に報告いたします。

大会は、門脇先生の「打球式」で始まり、

打球式用のスモークボールは、黄色の煙をはきながらみごとフェアウエーの真中に打ち出されました。今回は、第 1 回のため、ハンディキャップは、各自が良識に従って申告するという方法がとられました。参加 11 名が、3 グループに分かれ、河川コース特有の強風になやまされながら、各選手大いに奮闘いた

しました。強風が原因しての珍プレーや、ナイスプレーがとび出し、和やかなうちにも、会長杯をめざして慎重なプレーが1 R半続きました。結果は、ハンディ30の津村が、ネットスコア119で、2位の山中氏に0.5打差で優勝しました。ベストグロスは、ハンディ9の山中氏が(45,45,43)133で獲得、正確なコントロールを必要とする、ニアピン賞は、堀内、菊地両氏によつて、パターンによる決勝戦が行なわれ、菊地氏が勝ちました。ドライバーコンテストは、強いフォローの影響で飛距離が伸び、約400ヤード飛

ばした、津村が1位でした。その他、珍プレー賞は、ティグラントより後方に飛ばした早田氏、48から後半63に崩れた佐藤氏には大波賞、逆に56,54,57と、常に安定したプレーを続けた高田氏には小波賞など全員が受賞しました。

今回のコンペ開催にあたりまして、吉川、山中両氏に非常なご尽力を載きましたことを、末筆ながら心から感謝いたします。第2回は8月中旬に、吉川、山中、津村の幹事により開催いたします。皆様の積極的な参加をお願い申し上げます。

### 〔第1回ゴルフコンペ成績〕

	1Round		2Round	Gross	Hd'p	Net score	Rank
	out	in	out				
門 脇	51	58	56	165	36	129	7
山 中	45	45	43	133	13.5	119.5	2 BG
堀 内※	54	52	45	151	27	124	5
佐 藤※	48	62	63	173	42	131	9
早 田	56	59	50	165	42	123	4
工 藤	66	53	57	176	54	122	3
高 田	56	54	57	167	42	125	6
菊 地	70	59	60	189	45	144	11
吉 川	50	62	57	169	30	139	10
野 崎	60	53	54	167	37.5	129.5	8
津 村	54	55	55	164	45	119	1

※印は会員外参加の方です。

		Gross	Hdp	Netscore
優勝	津村二郎	164	45	119
2位	山中勝男	133	13.5	119.5
3 "	工藤道弘	176	54	122
4 "	早田卓次	165	42	123
5 "	堀内岩雄	151	27	124
6 "	高田信興	167	42	125

B. G (ベストグロス賞)	山中	133	小波賞	高田 56.54.57
B. B (ブービー賞)	吉川		セブン賞	門脇
D. C (ドライバーコンテスト)	津村	400ヤード	B (バーデー賞)	野崎, 堀内 各1
N. P (ニアピン賞)	菊地	50cm	珍プレー賞	早田
大波賞	佐藤	48.62.63.	O. B賞	菊地

## 会員名簿訂正について

総務

昭和47年2月発行の会員名簿は、その後の移動で大幅に訂正しなければなりません。本年度は、会員同意書および入会申込書を整理いたしまして、7月頃には新しい名簿をお届けする予定です。そこで今回は個別の訂正を掲載いたしませんのでご了承下さい。

次の方々は住所がわからない方々です。ご存知の方は菊地までお知らせ下さい。

第4回	大場	穠	
第5回	稲垣	泰治	小川 洋介
第7回	藤田	一	
第8回	角	佐久良	竹内 和好
第9回	佐藤	健一	
第10回	中村	瑞穂	
第11回	相沢	潔	山田 昌子
第12回	大島	安広	後藤 む津子
"	佐野	信行	菅 功
"	三上	一将	森山 理
第13回	阿藤	秀樹	在原 祥子
"	宮沢	多恵子	山村 英子

## 会 費 領 収 に つ い て

47年2月21日以降, 5月10日現在ま での納入状況です。	47. 3. 26 椎 野 芳 挙 1,000円
現金にて	4. 2 伊 藤 寛 美 1,000
47. 3. 15 稲 橋 恒 行 3,000円	" 浦 辺 由 子 1,000
" 稲 橋 恭 子 2,000	" 桑 島 祥 子 1,000
3. 24 仁 木 文 子 1,000	4. 5 平 川 文 雄 1,000
" 吉 川 輝 3,000	" 堀 田 淳 二 1,000
" 小 松 武 雄 1,000	" 鶴 見 興 人 1,000
" 小 栗 郎 1,000	" 朝 倉 徳 雄 1,000
" 福 田 竹 子 1,000	" 中 野 憲 明 1,000
" 中 原 剛 1,000	" 早 川 尙 夫 1,000
" 大 坪 哲 夫 1,000	4. 15 古 市 和 也 2,000
" 津 村 二 郎 2,000	4. 26 岩 田 淳 1,000
" 相 原 和 明 2,000	" 今 村 悟 3,000
	4. 28 橋 口 泰 武 1,000

昭和47年度会費納入期限は

6月30日 です

未納の方は同封の振替用紙を  
ご利用のうえ納入して下さい。

## 編集後記

桜樹会が発足してから10年。親睦を中心とした会から脱皮し、充実した内容のある会に育てる一つの足掛りとしてこの機関誌「桜樹会会報」が発刊された。2年前のことである。以後、財政的に苦しみながらも何とか第6号まで発刊できた。その陰には原稿集めに奔走し、徹夜で編集し、赤字を覚悟で印刷所に原稿を送り込んだ菊地先輩の努力があった。

大学紛争も一段落し時間的余有ができたこともあって、簡単に編集を引き受けてはみたものの、なかなか自分の思うようには進まないものである。何事も3年目が大事だというので、意地でも今年度の3刊をやりとげたい。

一回飲めば吹っ飛ぶ金銭がこの活字を残し、この会報がOB、OGの連絡簿となり、少しでも会員相互の交流が出来れば嬉しい。

年間3回の発刊を予定しているが、出来れば1刊を報告誌に、他の2刊を研究誌にする

べく努力している。

ただ、「千金の姿は一狐の腋にあらず」という如く、会を育てるのは会員全てであり、会報をつくるのも会員全てである。そのためにも年一回は会への連絡がほしいものである。通信連絡の手段は種々あるが、例えば振替用紙の通信欄等を使えば無料で連絡出来る。原稿を送る場合はそうもいきまいが、送料くらは会で負担出来る（原稿料は出ませ〜ん）。原稿が多く、編集部で整理するのに困るような嬉しい悲鳴をはやくききたいものだ。

47-4 (小松 記)

原稿、研究論文、挿し絵等お送り下さい。桜樹会の存在について、特に総会に出席されない地方の方々のご希望等ご寄稿下さい。

```
* * * * *
*
*   原 稿 送 付 先
*
*   千 葉 市 花 見 川      3 - 1 2 - 3 0 2
*
*
*
*           菊      地      君      男
*
*
* * * * *
```